

令和7年度 立川市立第四小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	○みんなと つくる	◎みんなと つたえあう	○みんなと みとめあう
---------	-----------	-------------	-------------

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> ・主体性、思考力・判断力・表現力 ・見通しをもち、最後までやりぬく力 ・生きて働き、活用できる各教科の基礎的・基本的な知識や技能の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がより主体的に取り組み、考えるための手だてと価値付けのある授業づくり ・カリキュラムマネジメントの充実 ・一人1台のタブレットPCを活用した授業づくり

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが相手に分かるように伝える力 ・考えを表現したり、文章を理解したりするために必要な言語力 ・叙述を基に、文章を読み解く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書いたり、言葉で表したりする機会を増やし、友達と伝え合うことを通して身に付けられるようにする。身に付いた力を他教科へもつながらるように仕掛けづくりをする。特に低学年では、語と語や文と文のつながりに注意しながら内容のまとまりが分かるように伝えること、中学年では、相手や目的に応じて自分の考えを伝えること、高学年では、自分の考えが明確になるように構成を考えて伝えることを目標にする。 ・書ける漢字を増やしていくために、自ら漢字について学習したいと思える仕掛けづくりをする。文章の中で使えるようにする。 ・主語と述語の関係や修飾関係をおさえることに加え、辞書を活用し、語彙の拡充を図り、言語力を高める。 ・自分の考えの理由になるところにサイドラインを引かせる。行動やセリフに注目させるような発問を工夫する。 ・読書量を増やすために学校図書館を活用し、語彙量を増やせるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について自分事として捉え、問いを見いだす力 ・地理的環境に関する基礎的な知識 ・資料の特徴に応じて、情報を読み取る技能 ・必要な情報を吟味して関連付けの中で、自分の考えを構築し、判断（意思決定）する力 ・学習を自己調整する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の現状が分かったり、身近に感じられたりするような資料の精選・提示をして、問いを見いだせるようにする。 ・地図記号、方位、都道府県名、世界の大陸名と主な海洋名などについては、学習内容と関連付けながら、その都度、地図帳や地球儀などを活用して各学年で繰り返し調べる活動を通して、身に付けられるようにする。 ・課題解決に必要な資料の特徴に応じて、具体的な資料の読み取り方や視点（位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係等に着目する）を指導し、資料のどこを見て、どのようなことが分かるか考えられるようにする。 ・社会的事象相互の関連（生産者販売者の工夫と消費者の工夫との関連、関係機関の相互の連携や協力など）や意味（社会的・歴史的事象の社会における働き、国民にとっての役割など）を考えさせ、その社会的事象に関するよさや課題を考える活動を設定する。 ・単元計画表を提示したり、ポイントを提示したりして、調整して学べるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識や技能（計算力、単位、図形の名前、特徴等） ・問題解決への見通しをもち、思考の過程を表現する力 ・新たに身に付けた知識・技能をもとに根拠をもって統合的・発展的に考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた四則演算の技能の定着を図るよう、四小タイムなどを活用して継続して計算の演習問題に取り組めるようにする。また、単元の復習テストを実態に応じて行う。 ・問題場面をきちんと把握するためにも図に表す習慣を身に付けさせ、図を基に立式できるようにする。授業の中で互いの考えを共有、説明する時間を確保する。 ・問題解決に必要な条件を見だし、それを式として表現、適切に使うことができる力を伸ばしていけるような課題を授業の中で設定していく。

理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具や用具を安全に正しく使う技能 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題を科学的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で取り扱う実験器具や用具の正しい名称や使い方を指導し、全員が実験器具に触れる機会と時間を確保し、技能を身に付けられるようにする。 既習内容や日常的な事象を根拠に予想や仮説を立ててノート等に記述するよう指導するとともに、ペアやグループ等で対話する場を設定することで、一人一人が根拠のある予想が考えられるようにする。 予想や仮説を立てる際は、観察や実験で検証可能なものかという視点をもたせることで、児童が見通しをもって観察・実験の計画を考えられるようにする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人々や自然との関わりや特徴に気付く力 自分自身や身近な自然や人々について考え、表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や植物を観察したり育てたりする活動を通して、特徴や様子、変化の発見の仕方を場面に合わせて繰り返し指導する。学校や地域での活動や人々との触れ合いを通して、他者との関わり方を身に付けられるようにする。 観察のポイントを具体的に示したり、活動を通して気付いたこと考えたことなどを、ICTを活用したり絵や劇化などの多様な方法によって、他者と伝え合ったり振り返ったりする機会を増やす。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を理解する力と表現するための基礎的な技能 すすんで音楽に関わり、思いをもって表現したり、音楽のよさを見付けて、味わって聴いたりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動を生かして基礎・基本の充実を図る。 ペアやグループ学習を取り入れ、互いに学び合いながら身に付けられるようにする。 既習内容、楽譜に記されている内容からの「気付き」や聴いて「感じ取ったこと」を題材と結び付けながら共有し、楽曲への理解を深めていくようにする。 学習に見通しをもてるようなワークの活用、学びの選択や振り返りを生かした取り組み、表現や言葉での伝え合いを通して主体的な学びが実現できるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な特徴や材料等を基に、発想や構想をし、自分の思いをすすんで表す力 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具の基本的な扱い方を身に付けたり、材料選択の経験を積み重ねたりすることで、発想や構想する力を伸ばす。 自分や友達の思い、表現を知る場面を設定し、互いに認め合いながら、思いを広げたり、表したいものを表したりできるようにする。 形や色、材料の質感、手や体全体を働かせる感覚等を意識して活動できるようにすることで、表したいことや表し方等について考えられるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を家庭生活に生かす力 生活をよりよくしようと工夫する力 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で身に付けた知識・理解を日常生活に活用できるように、家庭での連携を図り、実践計画を立てられるようにする。 家庭の仕事を継続して行えるように、活動を紹介するなど、児童の意欲付けをする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で活用できる基礎的な技能 友達の良い動きや運動についての自己の課題を見付け、思考し判断するとともに、他者に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画を基に、様々な領域の運動をより一層バランスよく経験できるようにする。 基礎感覚を育むような運動に低学年から継続的に取り組めるようにする。 動きや技のポイントを見付けて言語化し、共有する活動を1年生から積み重ねる。 友達の良い動きを見付けたり、考えたりしたことを伝える活動を1年生から積み重ねる。 学習カードを活用し、自己の課題について思考し判断したことを文章で表す活動を積み重ねる。 評価の規準を教員も児童も共有することで、指導と評価の一体化を図る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりする力 アルファベットの大文字、小文字を正しく書いたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したりする力 文字を識別し、読む力 	<ul style="list-style-type: none"> 毎單元ごとに関連する英語の歌やグループ、ペアワークなど多様な活動を取り入れ学習に変化をもたせながらコミュニケーション活動を増やしていき、自信をもって会話ができるようにする。 帯活動としてアルファベットを書く時間を設定し、アルファベットに親しめるようにする。 ICTで視覚化したり、フォニックスを活用したりして、音と文字を一致させてアルファベットを識別できるようにする。